

- ### がん診療連携拠点病院の要点
- <http://www.mhiw.go.jp/topics/2006/02/tp0201-2.html>
- 診療体制
    - 標準的抗がん剤治療の体制(外来通院化学療法)
    - 緩和医療の体制
    - 医療連携体制
  - 研修体制
  - 情報提供体制
    - 相談支援機能を有する部門(相談支援センター等)

- ### 地域がん診療連携拠点病院の指定要件
- #### 3 情報提供体制
- (1) 地域がん診療連携拠点病院内に相談支援機能を有する部門(相談支援センター等)を設置すること。
- (2) 当該部門に専任者が1人以上配置されていること。
- (3) 当該部門は、地域がん診療連携拠点病院内外の医療従事者の協力を得て、当該拠点病院内外の患者、家族及び地域の医療機関等からの相談等に対応する体制を整備すること。
- <http://www.mhiw.go.jp/topics/2006/02/tp0201-2.html>

- ### 相談支援センターの業務
- ア 各がんの病態、標準的治療法等がん診療に係る一般的な医療情報の提供
  - イ 地域の医療機関や医療従事者に関する情報の収集、紹介
  - ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
  - エ 患者の療養上の相談
  - オ 患者、地域の医療機関、かかりつけ医(特に紹介元・紹介先の医師)等を対象とした意識調査
  - カ 各地域における、かかりつけ医等各医療機関との連携事例に関する情報の収集、紹介
  - キ アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談
  - ク その他、相談支援に関すること
- <http://www.mhiw.go.jp/topics/2006/02/tp0201-2.html>

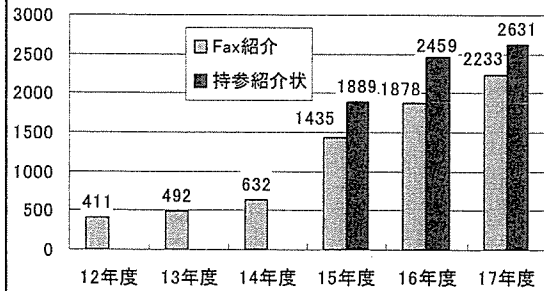
- ### 「がん相談支援・情報センター」立ち上げまで
- H11/10~
    - Fax紹介に対応
    - H14/10~ 医療連携室設置、専任職員(パート職員)の配置
  - H15/4~
    - 通院治療センター設置、専任の認定看護師の配置
    - 緩和ケア外来と緩和ケアチーム始動、専任看護師の配置
      - ・ 在宅移行支援(退院支援)、在宅療養支援
  - H16/4~
    - WOC外来(専任看護師)、リンパ浮腫外来(併任看護師)始動
    - セカンドオピニオン対応(医療連携室に専任看護師の配置)
  - H16/10~
    - よろず相談室設置、医療ソーシャルワーカー(パート職員)の配置

## 「がん相談支援・情報センター」立ち上げまで

- H11/10～
  - 医療連携室（Fax紹介） ← はじめは病歴室のパート職員に頼み込んだ
- H15/4～
  - 通院治療センター
  - 緩和ケア外来と緩和ケアチーム始動
    - ← 病棟からの看護師配置転換の見返りとして退院をサポートした
- H16/4～
  - WOC外来、リンパ浮腫外来
  - セカンドオピニオン対応
    - ← 電話交換手に患者からの相談はすべて回してもらった
- H16/10～
  - よろず相談室：ソーシャルワーカーは緩和ケアチーム員として活動

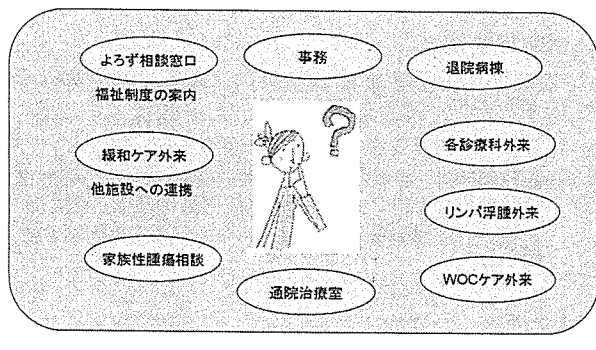
院内各部署の本来業務からはずれる仕事を整理

### Fax紹介と持参紹介状の件数



H15年1月に医療連携室に専属事務職員1名を配置  
四国がんセンターニュース、HPを拡充

## 旧病院における相談支援体制

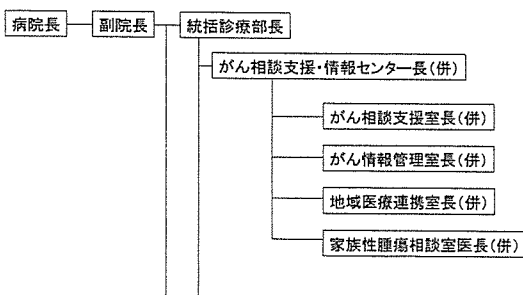


## 相談窓口の一本化

### がん相談支援・情報センター

がん患者・家族および医療関係者に対する相談支援事業および情報提供事業

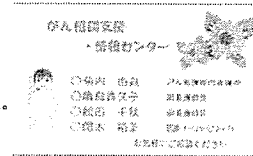
## がん相談支援・情報センターの組織図

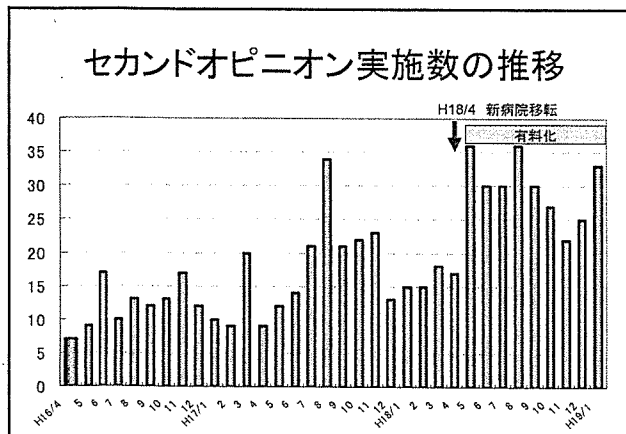
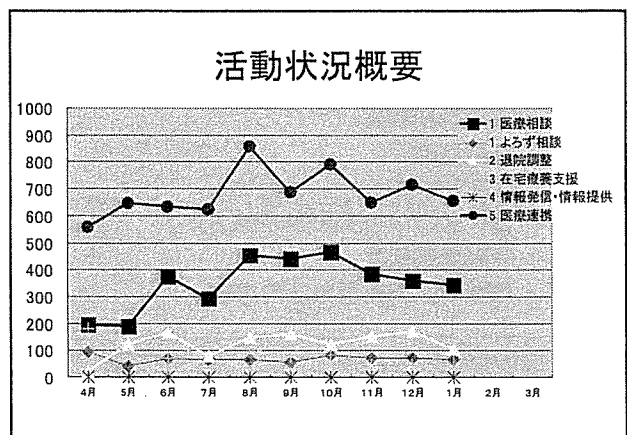
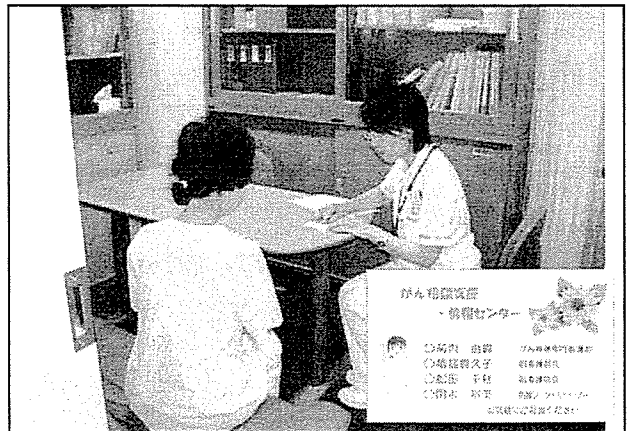


## 四国がんセンターがん相談支援・情報センター

がん患者・家族および医療関係者に対する相談支援事業および情報提供事業を行う

1. 医療相談、よろず相談  
対面相談および電話相談。
2. 退院調整  
病棟看護師と協同し入院早期より介入。
3. 在宅療養支援  
外来通院中の患者に対する支援。
4. 医療連携  
セカンドオピニオン、FAX紹介相談・対応の業務。また地域の医療機関や訪問看護ステーションとの勉強会、相互交流を図る。
5. 情報発信・情報提供  
がん患者数、治療症例数についての情報公開。またパンフレットやクリニカルパスを用いてがん治療に関する情報提供。





- ### 相談内容の概要
- 受診の方法を知りたい。
  - ひたすら思いを聞いて欲しい。
  - 医療に対する不満を聞いて欲しい。
  - 悪い知らせを患者にどのようにしたらよいか。
  - 最新治療について知りたい。
  - 緩和ケアについて知りたい。
  - こんなこと聞いていいのだろうか……。
  - 医師との関係

## がん医療で患者・家族が求めているもの

- ・がん医療に関する最新情報。
- ・十分に納得できること。
- ・必要と感じたときにいつでも利用可能な相談窓口。
- ・感情を十分に表出し受けとめられる人、時間、場所。
- ・継続的で一貫性のあるサポート。

## がん相談支援センターの役割と課題

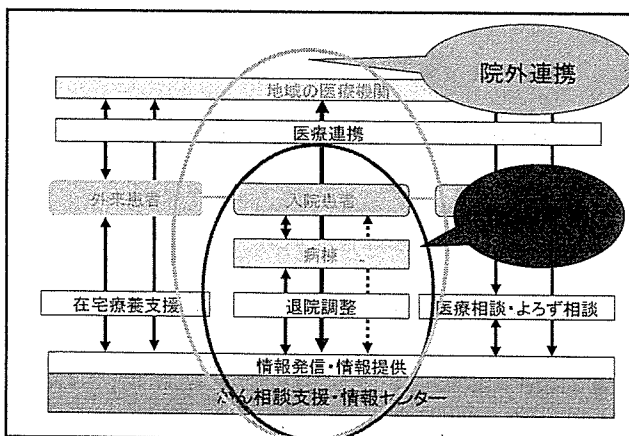
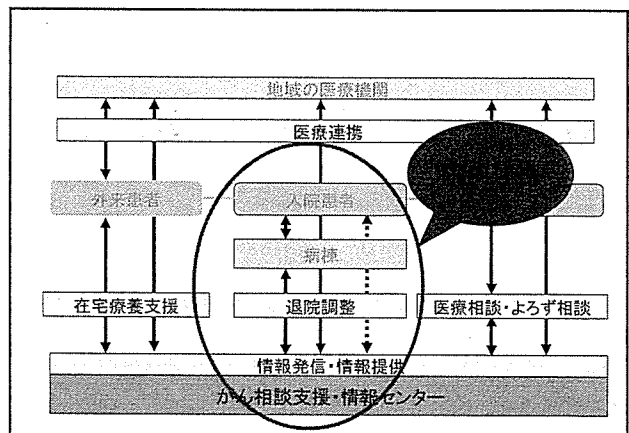
- ・相談者が困りごとについて十分に吐き出せるような語りの促進と傾聴。
- ・簡単な質問の裏に隠されている相談者の本当に求めているものにアプローチすること。
- ・患者・家族が納得した医療を受けるために、困難に対して自信をもって立ち向かえるよう支持・支援すること。
- ・感情を十分に表出し受けとめられる人、時間、場所の整備。
- ・複雑な問題への対処ができるスタッフの配置。

**専門看護師(CNS)や臨床心理士の配置**

## 病院の医療者は外を知らない

- ・医療計画制度
- ・在宅医療
  - 在宅で求められる医療技術
  - 在宅で行われる医療の考え方
- ・介護保険制度
- ・地域の医療資源の活用方法

病院の医師、看護師といえども、今や病院での診療に専念するだけでは済まされない。

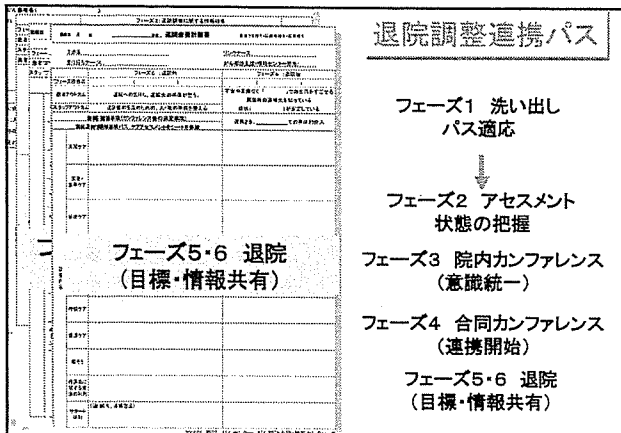


## 入院時 スクリーニング

右にチェックがある場合、エキスパートNriに情報提供

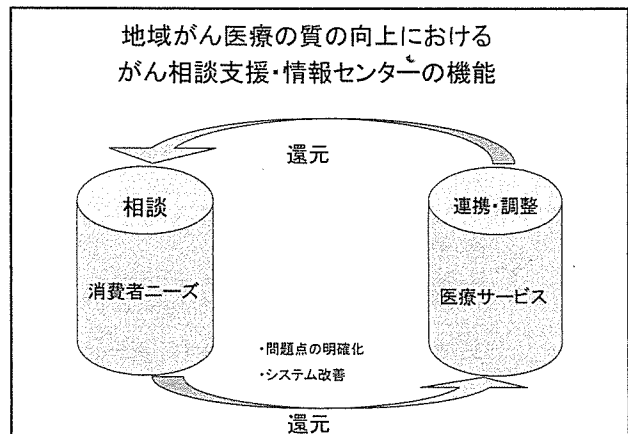
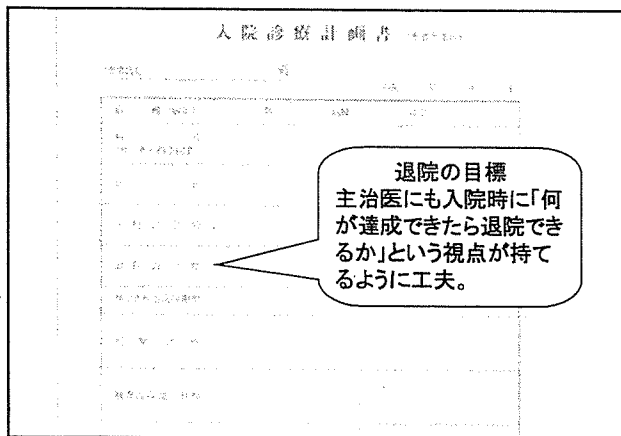
<病名> 肺癌がん 局所再発		フェーズ1: 登録アセスメント				登録日
<入院の目的>		フェーズ担当管( )				登録日
手術	(化学療法) (症状) (フォロー)	患者アクトカム	退院について考える			/
その他( )		スタッフアクトカム	退院を視野に入れた情報収集、アセスメントができる			入院日
<input type="checkbox"/> IP&S	1 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	<input checked="" type="checkbox"/> 4			
<input type="checkbox"/> 清潔ケア	自立	要介助				
<input type="checkbox"/> 栄養・食事ケア	経口	経口以外 IVH 経管栄養 その他( )				
<input type="checkbox"/> 排泄ケア	自立	要介助 Pt-イレ オムツ カテーテル その他( )				
<input type="checkbox"/> 移動ケア	自立	要介助 車椅子 ベット				
歩行の状況		杖歩行 つたい歩き 歩行器				
<input type="checkbox"/> 疼痛の予防・経路ケア 疼痛なし		疼痛あり =>がん性疼痛管理認定NS				

見捨てられたと思われないための退院調整連携パス  
継続医療、連携によるサポートを明示し安心を確保



### 退院調整連携パスの適応状況

	10月	11月	12月	1月
入院数	589	566	543	626
パス適応数	92	67	101	141
連携を支援した数	10	32	22	14



### 相談支援センターは解決への窓口

- 相談支援センターは患者および医療機関からの苦情のはけ口ではなく、問題解決への窓口である。
- 病院内外の関係者をつなぎ、相談者に納得のいく解決へ向けて能力を発揮する必要がある。
- 担当者に卓越した交渉・調整能力が要求されると共に、周囲からの協力が不可欠である。
- 病院内の各職種、各部門との連携調整では単なる繋ぎにとどまらず、拠点病院としての質を保障するものでなければならない。

### 相談支援センターは始まりである

- 拠点病院の院内外に対応する相談支援センターは病院のQuality Managementを超えて地域医療のQuality Managementに直結している。
- 地域医療のQuality Managementが「相談支援センター」として出発したことは患者視点の重視からみて当を得ている。
- 相談支援センターはQuality Managementを担う部門の始まりである。

1人の専任をおいてお茶を濁すなかれ

- 「相談支援センター」における相談対応は潜在需要の掘り起こしであり、どの程度の人材を充てればよいかの判断は時期尚早である。指定条件の「専任1名以上」というのは専任の配置を義務づけたもので適正人数を示したものではない。
  - 潜在需要を掘り起こしそれに応えるのみならず、地域社会に活力と安心を与えるに足る相応の専門職を配置する必要がある。
- 看護師の配置がなくて済まされるのか、医事課の管轄でよいのか、現場の業務改善につながらなくてよいのか。

第5次医療法改正

— 医療に関する情報提供の推進 —

良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律  
平成19年4月1日施行

都道府県ごとに、日常医療圏内の医療機能、患者の疾病動向を把握した上で、診療ネットワークを構築することとし、

同時に医療機関の管理者に対しては、

- ① 管理・運営及びサービスやアメニティー等の体制に関する事項
  - ② 情報提供や医療連携体制に関する事項
  - ③ 医療の内容や実績・結果に関する事項
- などの「一定の情報」を都道府県に報告することが義務付けられる。

この医療機能に関する情報は、都道府県から地域住民や他の医療機関に公表される。

<http://www.mhiw.go.jp/shingi/2006/09/s0922-8.html>  
[http://www.pharma-network.com/mcc/job/medical\\_10.html](http://www.pharma-network.com/mcc/job/medical_10.html)

医療機関の診療機能情報

- がん診療連携拠点病院のがん診療機能情報  
がん対策情報センターからHP公開  
<http://ganjoho.ncc.go.jp/base/index.html>
- それ以外の(全医療機関の)診療機能情報  
都道府県からHP公開  
第1回医療情報の提供のあり方等に関する検討  
<http://www.mhiw.go.jp/shingi/2006/09/s0922-8.html>

医療機関の情報公開に関する責務は  
1. 国がん、都道府県が行う調査への協力  
2. 自院情報のHP公開

県立広島病院の緩和ケア支援センター

本家好文

緩和ケアセンター

- 緩和ケア科
  - ・医師、看護師、音楽療法士ほか
  - 外来
  - 病棟 (20床)
- 緩和ケア支援室
  - ・看護師、MSW、心理職ほか
  - 情報提供 情報収集室、図書室
  - 総合相談 緩和ケアダイヤル、面談
  - 専門研修 医師、看護師、福祉関係者コース
  - 地域連携 緩和ケアのネットワークの構築を目指し専門的助言(アドバイザー派遣事業)

在宅緩和ケアの推進 ・デイホスピスモデル事業

地域の医療者への研修

広島県緩和ケア支援室が行う研修事業

	H16年度	H17年度
●緩和ケア医師研修	17名	28名
●看護師研修(専門)	18名	23名
●看護師研修(入門)	185名	135名
●看護師研修(フォローアップ)	26名	35名
●緩和ケア福祉関係者研修	33名	51名

地域の医療者への緩和ケア研修  
= 患者が地元に戻るときの連携先

厚生労働科学研究費補助金

第3次対がん総合戦略 研究事業

患者の視点を重視したネットワークによる在宅がん患者支援システムの開発に関する研究

平成16年度～18年度 総合研究報告書

主任研究者 谷水 正人

平成19（2007）年 4月

目 次

I. 総合研究報告		
患者の視点を重視したネットワークによる在宅がん患者支援システムの 開発に関する研究	-----	1
谷水正人		
(資料1) がん疼痛コントロールマニュアル		
(資料2) がん疼痛コントロールパス医療者用		
(資料3) がん疼痛コントロール患者説明		
(資料4) 退院調整連携パス		
(資料5) がん相談支援・情報センター活動概況		
(資料6) 在宅医療の現状と地域医師会ネットワーク		
(資料7) 相談支援センター」の役割と機能		
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	105
III. 研究成果の刊行物・別刷	-----	114



## 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍：

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
兵頭一之介	患者および家族が代替治療を望むとき (医療者としてどう対応するか)	池永昌之, 木澤義之	ギア・チェンジ 緩和医療を学ぶ 二十一会	医学書 院	東京	2004	106-13
森脇俊和, 兵頭一之介	倦怠感発現時 の対策	西篠長宏	～抗がん剤治療 に伴う～有害反 応対策の実際	日本化 薬	東京	2005	26-30
仁科智裕, 兵頭一之介	大腸癌に対す る化学療法	市倉 隆	消化器がん化学 療法	日本メ ディカ ルセン ター	東京	2006	205-18
本家好文	真実の伝え方と 支え	平山正美	新体系 看護学35 生と死の看護論	メヂカル フレンド 社	東京	2006	50-57

雑誌：

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Muro K, Hamaguchi T, Ohtsu A, Boku N, Chin K, Hyodo I, Fujita H, Takiyama W, Ohtsu T.	A phase II study of singl e-agent docetaxel in patie nts with metastatic esopha geal cancer.	Ann Oncol	15(6)	955-59	2004
Nishina T, Hyodo I, M iyaike J, Inaba T, Su zuki S, Shiratori Y	The ratio of thymidine pho sphorylase to dihydropyrim idine dehydrogenase in tum our tissues of patients wi th metastatic gastric can cer is predictive of the cl inical response to 5'-deox y-5-fluorouridine.	Eur J Cancer	40(10)	1566-7 1	2004
谷水正人, 佐伯光義, 久 野梧郎, 徳永昭夫, 芳仲 秀造, 木村映善	【ITはあなたのパートナー ベストな選択をするために 診療所編】 地域医療の新た な展開 愛媛情報スーパーハ イウェイと愛媛県医師会地域 医療情報ネットワーク(EMAネ ット)	INNERVISION	19(2付 録)	18-20	2004

Hirasaki S, <u>Tanimizu M</u> , Moriwaki T, <u>Hyodo I</u> , Shinji T, Koide N, Shiratori Y	Efficacy of clinical pathway for the management of mucosal gastric carcinoma treated with endoscopic submucosal dissection using an insulated-tip diathermic knife.	Intern Med	43(12)	1120-5	2004
Hirasaki S, <u>Tanimizu M</u> , Tsuzuki T, Tsubouchi E, Hidaka S, <u>Hyodo I</u> , Tajiri H	Seronegative alpha-fetoprotein-producing early gastric cancer treated with endoscopic mucosal resection and additional surgery.	Intern Med	43(10)	926-30	2004
Hirao K, Hirasaki S, Tsuzuki T, Kajiwarata, <u>Hyodo I</u>	Unresectable alpha fetoprotein-producing gastric cancer successfully treated with irinotecan and mitomycin C after S-1 failure.	Internal Medicine	43(2)	106-10	2004
Shirao K, Hoff PM, Ohitsu A, Loehrer PJ, <u>Hyodo I</u> , Wadler S, Wadleigh RG, O'Dwyer PJ, Muro K, Yamada Y, Bokun N, Nagashima F, Abbruzzese JL	Comparison of the Efficacy, Toxicity, and Pharmacokinetics of a Uracil/Tegafur (UFT) Plus Oral Leucovorin (LV) Regimen Between Japanese and American Patients With Advanced Colorectal Cancer: Joint United States and Japan Study of UFT/LV.	J Clin Oncol	22(17)	3466-74	2004
Shimo K, Mizuno M, <u>Nasu J</u> , Hiraoka S, Makiyama C, Okazaki H, Yamamoto K, Okada H, Fujita T, Shiratori Y	Complement regulatory proteins in normal human esophagus and esophageal squamous cell carcinoma.	J Gastroenterol Hepatol.	19(6)	643-7	2004
Takenaka R, Okada H, Mizuno M, <u>Nasu J</u> , Toshimori J, Tatsukawa M, Shiratori Y, Wato M, Tanimoto Y	Pneumocystis carinii pneumonia in patients with ulcerative colitis.	J Gastroenterol	39(11)	1114-5	2004
Makidono C, Mizuno M, <u>Nasu J</u> , Hiraoka S, Okada H, Yamamoto K, Fujita T, Shiratori Y	Increased serum concentrations and surface expression on peripheral white blood cells of decay-accelerating factor (CD55) in patients with active ulcerative colitis.	J Lab Clin Med	143(3)	152-8	2004
Okazaki H, Mizuno M, <u>Nasu J</u> , Makidono C, Hiraoka S, Yamamoto K, Okada H, Fujita T, T	Difference in Ulex europaeus agglutinin I-binding activity of decay-accelerating factor detected in the	J Lab Clin Med	143(3)	169-74	2004

suji T, Shiratori Y	stools of patients with colorectal cancer and ulcerative colitis.				
Morita T, Ikenaga M, Adachi I, Narabayashi I, Kizawa Y, Honke Y, Kohara H, Mukaiyama T, Akechi T, Uchitomi Y; Japan Pain, Rehabilitation, Palliative Medicine, and Psycho-Oncology Study Group	Family Experience with palliative sedation therapy for terminally ill cancer patients.	J Pain and Symptom Management	28(6)	557-65	2004
Yamao T, Shimada Y, Shirao K, Ohtsu A, Ikeda N, Hyodo I, Saito H, Iwase H, Tsuji Y, Tamura T, Yamamoto S, Yoshida S	Phase II Study of Sequential Methotrexate and 5-Fluorouracil Chemotherapy Against Peritoneally Disseminated Gastric Cancer with Malignant Ascites: a Report from the Gastrointestinal Oncology Study Group of the Japan Clinical Oncology Group, JCOG 9603 Trial.	Jpn J Clin Oncol	34(6)	316-22	2004
Yoshida M, Ohtsu A, Bokun N, Miyata Y, Shirao K, Shimada Y, Hyodo I, Koizumi W, Kurihara M, Yoshida S, Yamamoto S	Long-term Survival and Prognostic Factors in Patients with Metastatic Gastric Cancers Treated with Chemotherapy in the Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Study.	Jpn J Clin Oncol	34(11)	654-9	2004
Morita T, Kawa M, Honke Y, Kohara H, Maeyama E, Kizawa Y, Akechi T, Uchitomi Y.	Existential concerns of terminally ill cancer patients receiving specialized palliative care in Japan	Supportive Cancer Care	12	137-40	2004
本家好文	【施設としてのホスピス】チームケアにおける医師の役割と主張	がん患者と対症療法	15(1)	26-29	2004
森田純子, 森ひろみ, 兵頭一之介	【コンセンサス 外来化学療法の実際】 外来化学療法のクリニカルパス 消化器癌	コンセンサス 癌治療	3(3)	144-47	2004
田中桂子, 志真泰夫, 本家好文	【呼吸困難のマネジメント】呼吸困難のマネジメントの指針	ターミナルケア	14(4)	272-74	2004
小原弘之, 志真泰夫, 本家好文	【呼吸困難のマネジメント】症状の緩和をどのように行うか 呼吸困難の薬物療法を中心に	ターミナルケア	14(4)	287-92	2004

兵頭一之介	がん医療における代替医療の考え方	ホスピスケア	15(2)	1-17	2004
仁科智裕, 兵頭一之介, 森脇俊和, 日高聡, 梶原猛史, 筑木隆雄, 平尾謙, 壺内栄治, 那須淳一郎, 平崎照士, 舛本俊一, 久保義郎, 栗田啓	フッ化ピリミジン系抗癌剤に治療抵抗性の転移性・再発大腸癌に対するIrinotecan Hydrochlorideを用いた化学療法の治療成績	癌と化学療法	31(9)	1361-64	2004
森脇俊和, 兵頭一之介, 仁科智裕, 那須淳一郎, 日高聡, 梶原猛史, 筑木隆雄, 平尾謙, 壺内栄治, 山内雄介, 平崎照士, 舛本俊一, 棚田稔	術後再発・転移性膵癌に対するGemcitabine Hydrochlorideの検討	癌と化学療法	31(9)	1373-76	2004
志真泰夫, 山口研成, 宮田佳典, 兵頭一之介, 八木安生, 本家好文	末期癌患者における消化管閉塞に伴う消化器症状に対するOctreotide Acetateの臨床試験	癌と化学療法	31(9)	1377-82	2004
舛本俊一, 谷水正人, 兵頭一之介	【プライマリケア医のための肝臓疾患診療マニュアル】 肝臓のターミナルケア	治療	86(9)	2529-34	2004
兵頭一之介	【手術不能進行胃癌への化学療法をどう行うか】 胃癌の化学療法に用いられる主な薬剤とその使い方 今後期待される新しい薬剤	消化器の臨床	7(6)	633-38	2004
多嘉良稔, 平儀野剛, 東條雅晴, 河野恒文, 野川享宏, 中根比呂志, 兵頭一之介, 長尾充展, 正田孝明	温熱化学療法が有効であった末期胃癌の1例	日本ハイパーサーミア誌	20(3)	179-87	2004
平崎照士, 兵頭一之介, 梶原猛史, 仁科智裕, 舛本俊一	超音波内視鏡検査で術前深達度診断が可能であった回腸悪性リンパ腫の1例	日本消化器病学会雑誌	101(1)	41-46	2004
兵頭一之介	がんの補完代替医療(総説)	日本補完代替医療学会誌	1(1)	7-15	2004
Morita T, Hyodo I, Yoshimi T, Ikenaga M, Tamamura Y, Yoshizawa A, Shimada A, Akechi T, Miyashita M, Adachi I	Association between hydration volume and symptoms in terminally ill cancer patients with abdominal malignancies.	Ann Oncol	16(4)	640-7	2005
Hirasaki S, Tanimizu M, Tsubouchi E, Nasu J, Masumoto T	Gastritis cystica polyposa concomitant with gastric inflammatory fibroid polyp occurring in an unoperated stomach	Intern Med	44(1)	46-9	2005

Hyodo I, Amano N, Eguchi K, Narabayashi M, Imanishi J, Hirai M, Nakano T, Takashima S	Nationwide Survey on Complementary and Alternative Medicine in Cancer Patients in Japan.	J Clin Oncol	23(12)	2645-54	2005
Moriwaki T, Hyodo I, Nishina T, Hirao K, Tsuzuki T, Hidaka S, Kajiwara T, Endo S, Nasu J, Hirasaki S, Masumoto T, Kurita A	A phase I study of doxifluridine combined with weekly paclitaxel for metastatic gastric cancer.	Cancer Chemother Pharmacol	56(2)	138-44	2005
Nagashima F, Boku N, Ohtsu A, Yoshida S, Hasebe T, Ochiai A, Sakata Y, Saito H, Miyata Y, Hyodo I, Ando M	Biological markers as a predictor for response and prognosis of unresectable gastric cancer patients treated with irinotecan and cisplatin.	Jpn J Clin Oncol	35(12)	714-9	2005
Kohno H, Mizuno M, Nasu J, Makidono C, Hiraoka S, Inaba T, Yamamoto K, Okada H, Fujita T, Shiratori Y	Stool decay-accelerating factor as a marker for monitoring the disease activity during leukocyte apheresis therapy in patients with refractory ulcerative colitis.	J Gastroenterol Hepatol	20(1)	73-8	2005
Nishikawa Y, Chikamori F, Murakami M, Nasu J	Clinical application of an indwelling needle for esophageal varices in endoscopic injection sclerotherapy with simultaneous ligation.	Digestive Endoscopy	17(4)	331-333	2005
Tsubouchi E, Hirasaki S, Kataoka J, Hidaka S, Kajiwara T, Yamachi Y, Masumoto T, Hyodo I	Unusual metastasis of hepatocellular carcinoma to the esophagus.	Intern Med	44(5)	444-7	2005
Hirasaki S, Tanimizu M, Nasu J, Shinji T, Koide N	Treatment of elderly patients with early gastric cancer by endoscopic submucosal dissection using an insulated-tip diathermic knife.	Intern Med	44(10)	1033-8	2005
Nasu J, Doi T, Endo H, Nishina T, Hirasaki S, Hyodo I	Characteristics of metachronous multiple early gastric cancers after endoscopic mucosal resection.	Endoscopy	37(10)	990-3	2005
Hirasaki S, Tanimizu M, Moriwaki T, Nasu J	Acute pancreatitis occurring in gastric	Intern Med	44(11)	1169-73	2005

	aberrant pancreas treated with surgery and proved by histological examination.				
<u>本家好文</u>	放射線科医がはじめた緩和医療	緩和医療学	7(1)	83-86	2005
<u>那須淳一郎</u> , <u>平家勇司</u> , <u>谷水正人</u> , <u>佐々木晴子</u> , <u>山田純子</u> , <u>福岡しのぶ</u> , <u>大住省三</u> , <u>久保義郎</u> , <u>青儀健二郎</u> , <u>新海哲</u> , <u>高島成光</u>	家族歴調査のシステム化による家族性腫瘍相談室の運営	家族性腫瘍	5(1)	57-60	2005
<u>富田淳子</u> , <u>岡田裕之</u> , <u>水野元夫</u> , <u>那須淳一郎</u> , <u>西村守</u> , <u>中村進一郎</u> , <u>小林功幸</u> , <u>河本博文</u> , <u>能祖一裕</u> , <u>岩崎良章</u> , <u>坂口孝作</u> , <u>白鳥康史</u> , <u>岩垣博巳</u> , <u>守本芳典</u>	潰瘍性大腸炎術後に門脈血栓症を合併し低用量ワーファリン内服が奏効した1例	日本消化器病学会雑誌	102(1)	25-30	2005
<u>那須淳一郎</u> , <u>平家勇司</u> , <u>谷水正人</u>	遺伝相談のカルテ	家族性腫瘍	5(2)	105-8	2005
<u>小原弘之</u> , <u>本家好文</u>	がん疼痛マネジメントにおけるオキシコドン ーオキシコドン徐放錠の臨床的特性と使用法の実際	がん患者と対症療法	16(2)	27-32	2005
<u>本家好文</u>	そこが知りたい放射線治療：Q&A	緩和ケア	15(3)	218-220	2005
<u>仁科智裕</u> , <u>兵頭一之介</u>	癌緩和医療における消化管閉塞の診断と治療	癌の臨床	51(3)	177-80	2005
<u>谷水正人</u> , <u>新海哲</u> , <u>兵頭一之介</u> , <u>舛本俊一</u> , <u>那須淳一郎</u> , <u>平崎照士</u>	【がん治療後の患者ケア 家庭医に知ってもらいたいこと】患者ケアにおけるインターネットがん情報の検索	治療	87(4)	1635-39	2005
<u>平崎照士</u> , <u>谷水正人</u> , <u>森脇俊和</u> , <u>梶原猛史</u> , <u>仁科智裕</u> , <u>兵頭一之介</u>	胆管細胞癌を合併したCronkhite-Canada症候群の1例	日本消化器病学会誌	102(5)	583-8	2005
<u>梶原猛史</u> , <u>那須淳一郎</u> , <u>平崎照士</u> , <u>仁科智裕</u> , <u>片岡淳朗</u> , <u>日高聡</u> , <u>森脇俊和</u> , <u>壺内栄治</u> , <u>山内雄介</u> , <u>舛本俊一</u> , <u>谷水正人</u> , <u>兵頭一之介</u>	膵癌に伴う上部消化管病変の検討	日本消化器内視鏡学会雑誌	47(6)	1220-1226,	2005
<u>那須淳一郎</u> , <u>仁科智裕</u> , <u>片岡淳朗</u> , <u>壺内栄治</u> , <u>梶原猛史</u> , <u>森脇俊和</u> , <u>今峰聡</u> , <u>谷水正人</u> , <u>野崎功雄</u> , <u>栗田啓</u>	早期胃癌における遠位胃切除術は残胃癌の危険因子か	消化器科	41(6)	466-70	2005
<u>森脇俊和</u> , <u>兵頭一之介</u>	【がん患者の倦怠感と緩和ケア】がん患者の倦怠感に対	看護技術	51(7)	592-95	2005

	する薬物療法				
小原弘之, <u>本家好文</u>	難治性疼痛とせん妄の関連が疑われた進行食道がんの1例	広島医学	58(8)	468-71	2005
森脇俊和, <u>兵頭一之介</u>	【大腸がん患者の治療方針】 化学療法の実際とポイント セカンドライン・サードラインの選択基準	臨床腫瘍プラクティス	1(2)	185-87	2005
Morita T, <u>Hyodo I</u> , Yoshimi T, Ikenaga M, Tamura Y, Yoshizawa A, Shimada A, Akechi T, Miyashita M, Adachi I; for the Japan Palliative Oncology Study Group	Artificial hydration therapy, laboratory findings, and fluid balance in terminally ill patients with abdominal malignancies. for the Japan Palliative Oncology Study Group.	J Pain Symptom Manage	31(2)	130-9	2006
Sakamoto J, Chin K, Kondo K, Kojima H, Terashima M, Yamamura Y, Tsujinaka T, <u>Hyodo I</u> , Koizumi W; Clinical Study Group of Capecitabine.	Phase II study of a 4-week capecitabine regimen in advanced or recurrent gastric cancer.	Anticancer Drugs	17(2)	231-36	2006
梶原猛史, <u>兵頭一之介</u>	薬の知識 オキサリプラチン	臨床消化器内科	21(1)	123-26	2006
Tannehill-Gregg SH, Levine AL, Nadella M V, <u>Iguchi H</u> , Rosol TJ	The effect of zoledronic acid and osteoprotegerin on growth of human lung cancer in the tibias of nude mice.	Clin Exp Metastasis	23(1)	19-31	2006
<u>Iguchi H</u> , Aramaki Y, Maruta S, Takiguchi S	Effects of anti-parathyroid hormone-related protein monoclonal antibody and osteoprotegerin on PTHrP-producing tumor-induced cachexia in nude mice.	J Bone Miner Metab	24(1)	16-19	2006
Kusumoto H, Haraguchi M, Nozuka Y, Oda Y, Tsuneyoshi M, <u>Iguchi H</u>	Characteristic features of disseminated carcinomatosis of the bone marrow due to gastric cancer : The pathogenesis of bone destruction.	Oncology Report	16(4)	735-40	2006
<u>Nasu J</u> , Nishina T, Hirasaki S, Moriwaki T, <u>Hyodo I</u> , Kurita A, Nishimura R	Predictive factors of lymph node metastasis in patients with undifferentiated early gastric cancers.	J Clin Gastroenterol.	40(5)	412-15	2006

谷水正人, 菊内由貴, 船田千秋, 亀島貴久子, 栗田啓, 高嶋成光	【チーム医療で進める癌治療】がんセンターと医療連携(地域連携)	癌と化学療法	33(11)	1563-67	2006
安田幹彦, 千住猛士, 荒武良総, 中村太一, 堀川ゆき, 横田昌樹, 澄井俊彦, 井口東郎, 船越顕博, 西山憲一	急激な経過を辿った若年発症の浸潤性膵管癌の1症例	日本消化器病学会雑誌	103(2)	194-99	2006
澄井俊彦, 船越顕博, 井口東郎	VII. 膵癌の治療 集学的治療について	日本臨牀	64(増刊号1)	232-36	2006
井口東郎, 横田昌樹, 澄井俊彦, 船越顕博	進行消化器癌における骨転移対策	消化器科	42(2)	161-67	2006
堀伸一郎, 那須淳一郎, 今峰聡, 仁科智裕, 森脇俊和, 梶原猛史, 片岡淳朗, 松原寛, 灘野成人, 谷水正人, 井口東郎	ESDにおける偶発症とその対策	消化器科	43(2)	185-88	2006
平崎照士, 谷水正人, 那須淳一郎, 片岡淳朗, 松原稔, 鈴木誠祐	早期胃癌に合併した粘膜下腫瘍型胃hamartomatous inverted polypの1例	日本消化器病学会雑誌	103(7)	833-37	2006
田所かおり, 関木裕美, 神谷淳子, 谷水正人	医療者が考える末期がん患者の退院阻害要因	癌と化学療法	33	338-40	2006
品川恵己, 榎埜良江, 本家好文	当院における緩和ケアに関する意識調査	広島県立病院医誌	37(1)	151-55	2006
本家好文, 小原弘之, 奥崎真里, 定元美絵, 阿部まゆみ	緩和ケアの多機能ネットワークによる療養方法選択のための支援	緩和ケア	16(3)	209-13	2006
本家好文, 小原弘之	緩和医療の現在	科学	76(7)	734-36	2006
本家好文	緩和ケアのこれから	尾道総合病院医報	16	13-15	2006
本家好文	在宅緩和ケアの広がりを目指してー広島県緩和ケア支援センターの取組み	香川県医師会誌	59(5)	120-22	2006
田所かおり, 大住省三, 那須淳一郎, 菊屋朋子, 佐々木晴子, 青儀健二郎, 久保義郎, 谷水正人	家族性乳癌家系の経験による積極的働きかけへの方針転換	家族性腫瘍	7(1)	27-29	2007
井口東郎	骨転移の分子機構と治療への展開	癌と化学療法	34	1-10	2007
井口東郎, 丸田樹明	ビスホスホネートによる骨転移治療の最近の進歩	血液・腫瘍科	54	244-56	2007
井口東郎	骨転移治療: 新生代ビスホスホネートの作用機構と使い方	呼吸器科	11	142-55	2007



船田千秋, 亀島貴久子, 菊内由貴, 関木裕美, 谷水正人, 河村進	地域連携を目指した退院調整 連携パス	緩和医療学	9(2)	139-46	2007
本家好文	看取りに対する医師の思い	緩和ケア	17(2)	128-29	2007

# 患者および家族が代替医療を

## 望むとき

医療者としてどう対応するか

兵頭一之介



治療法の選択は科学的根拠を有する治療法の情報開示に始まり、患者と十分に相談した結果、合意を得て行われるものである。代替医療は医学的にエビデンスの十分でないものを指す。代替医療の中には、ある程度の科学的エビデンスを有するものから、ほとんどないものまで様々なものがある。

## Case

### 健康食品に期待する癌患者と家族

66歳、男性。3年前に進行結腸癌で切除手術を受けた。2年前に多発性の肝転移と腹部リンパ節転移と診断され、これまでに2種類の化学療法を受けた。3カ月前、増悪が確認され有効な抗癌薬がないことが告げられ、以後、患者は緩和医療を受けることで同意した。前化学療法は両治療とも一時的な効果は認められたが、最終的に癌は進行し、現在、肝腫大と軽度の黄疸がみられ腹痛を訴えている。抗癌薬治療が開始されたときのインフォームド・コンセントの過程で、患者ならびに家族に生存期間中央値が約1～2年と知らされている。患者は、この頃から息子がインターネット販売で購入したキノコ類食品を利用していた。現在、患者のテーブルに置かれたバッグの中には4種類のキノコとサメ軟骨食品および利用者の体験談を掲載した単行本が数冊入れられている。患者から「利用している健康食品の効果がどの程度期待できるのか」との質問があった。

インフォームド・コンセントはとるもの？  
インフォームド・コンセントは医療者がとるものではなく、患者や家族から医療者に与えるものである。したがって説明するだけでは不十分で、患者や家族からの問いかけや意見に十分に耳を傾けることが重要になる。

## 緩和医療の知識

医療者はエビデンスに基づくインフォームド・コンセントを行ったうえで患者の自己選択権を尊重し、可能な限り科学的な治療を提供し客観的な評価を行うよう努めている。その過程では標準的な治療法から始まり代替治療として有用性のエビデンスが劣るものをも提示している。この代替治療の中には有効性が標準治療に劣るものも含まれているが、いまだ標準治療との優劣が明らかにされていない新規の有望な治療法も含まれている。しかし、代替治療といえども現在の科学的評価法によって有効性と安全性が一定の基準で実証されているものしか提示すべきでないことはもちろんである。このように近代西洋医学における代替治療とは、標準治療の代わりに提供することができるだけの科学的検証を受けた治療法を指している。

一方、補完代替医療(CAM: complementary and alternative medicine)とは西洋医学的手法によって有効性や安全性が確認されていない医療と考えられている。代替という用語が同一であるため混乱や誤解を生じやすく、違和感をぬぐえないが、世界的にも名称については同様の状況にある。いずれにしろCAMは西洋医学的手法によって評価されていない医学ということになるが、それでは西洋医学的手法とは何か？ それは臨床試験である。臨床試験の倫理的規範はヘルシンキ宣言(Note 1)に求められ、科学的検証法は近年ICH-GCP(International Conference on Harmonization-Good Clinical Practice)へと結実している(Note 2)。つまりCAMにおいては臨床試験がほとんど行われていないということである。CAMには古くからの経験に基づく療法があったり、自然界の生物を用いたりするものが多く、臨床試験にはなじまないとする意見も多い。確かに瞑想や民族哲学的な療法などに関しては、臨床試験で評価することは困難を伴うが、医学的に臨床試験でしか評価しようのないサプリメントなども存在

### Note

#### 1. ヘルシンキ宣言

世界医師会総会において合意された被験者に対する生物医学研究についての国際的な倫理規範。十分な情報の開示と理解のうえに成り立つ自由な自発的同意が基本原則とされた。

#### 2. ICH-GCP

人に使用する医薬品を承認するための技術的要件を定めた国際的ガイドライン。ICH(International Conference on Harmonization)とは日米欧の三極で臨床試験の整合化を目的として開催された会議。GCP(Good Clinical Practice)とはわが国の臨床試験のための実施基準である。